

B班（穴山、菊池、馬場、松元）企画書

はじめに

本企画書では、B班が提案する「はまとな冒険プロジェクト」と、「対外交流増加による活性化～酪農を例にとって～」という二つの浜頓別町活性化案について概述します。

まず一点目について、浜頓別町内の各観光スポットを世代間、職業間格差を越えてゲーム感覚でつなげるプロジェクトの提案です。B班では、2009年8月4日～9日までのはまとな魅力発見プログラムにおけるB班のテーマである「水系」について20件強のインタビューを通じ調べた結果、はまとな冒険プロジェクトを最終発表日において町民の皆様の前で発表させていただきました。以下にあげる提案内容は、その発表をもとにして綴られたものです。

次に二点目として、山村留学の再開と酪農家の要請の提案です。水系に関する調査を行う中で、浜頓別町に伺うまでは思いもつかなかったような浜頓別町の魅力をB班内にて帰京後話し会いました。今後複数年に渡り我々と浜頓別町の皆さんが関係を持つにあたっての足がかりとしてこの提案をご覧いただければと考えています。

1. はまとな冒険プロジェクト

1. 1. はまとな冒険プロジェクトに至った経緯

私たちがはまとなべつに来て気付いたのが人々の温かさ、素直さ、そしてはまとなべつへの愛情でした。しかしながらそれはあまり表出することがなく、個々人が密かに育て上げていったものであるように思えました。また、いろいろな人に水に関してインタビューすることを通して、大きく3つの点について認識の違いが生じ、これにより町が一体となって活性化を図る際の障害になっているのではないかと思いました。それらは、

- ①市街地とそれ以外の地域の認識の違い
- ②住民と観光客の認識の違い
- ③職業観の認識の違い

と言ったものが背景にあるという考えに至りました。

また、はまとなべつの大きな魅力、固有性の一つとして、海・川・湖が織り成す多様な水の存在についても住民の方々には断片的にしかその魅力について認識していないように思えました。

それでは、このような認識の違い及び認識不足というものはどのようにして埋められる

のでしょうか？このように考えた時、このプロジェクトというものが最適ではないかと考えました。

1. 2. はまとん冒険プロジェクトの概要

はまとん冒険プロジェクトは官民NPO協働による壮大なプロジェクトです。

まず、はまとん冒険プロジェクトに参加した人はNPOと役場が共同で運営するギルドという施設に行って、冒険の書を発行してもらいます。そこでは次のような様々なプログラムがあります。

(図1：はまとん冒険プロジェクトのプログラム概要)

プログラム	主催	所要日時	費用	得られるもの・こと
漁業体験	漁業組合	1～7日	1000～	オホーツク産のホタテ、漁師の経験
酪農体験	酪農組合	1～14日	1000～	新鮮な牛乳、酪農家の経験
頓別川探索	NPO・役場	3～6時間	300	頓別川の自然風景
ベニヤ原生林探索	NPO・役場	3時間	300	原生林の大きさ
砂金採掘体験	ウソタンナイ砂金採掘公園	1時間～1日	500	砂金、心地よい疲労
地方の水飲み比べコーナー	NPO・役場	10分	0	はまとんの水のおいしさ
温泉	浜頓別温泉ウイング	0.5～1時間	500	疲労改善
クッチャロ湖の夕日	各自で	10分(夕方限定)	0	はまとんべつの素晴らしさの実感

上記の図において特に重要なのは漁業体験、酪農体験です。これらは異種の職種についている方々が他の職種への経験を通してはまとんべつでの人の多様性、そして職種間の認識の違いを払拭してはまとんべつに大きな一体感を生み出す原動力となります。

また、ほかのプログラムについてですが、実は多様な水資源の存在という我々の発見した魅力を暗にわかって頂きたいという思いがあり、これらのプログラム及び職業体験も大きくみれば水に関連しています。皆さんがいろいろな体験をした後にはまとんべつの資源の中でも特に重要な水のあり方について実感していただけたらと思います。

さらに、これらのプログラムには外部から来た方が観光に向かう際のポイントもとりこんであり、それらのポイントを回ることによって住民と観光客にみられる意識の差というものを埋めていくと同時に、はまとんべつの一般的な魅力というものを住民の方々に実感

して貰えばと思います。

次に全体についてのお話ですが、ひとつのプログラムをクリアするごとに冒険の書にスタンプが押され、全てのプログラムをクリアすると「はまとんマスター」としての称号をもらうことが出来、それ以降ギルドでのボランティアや仕事などを斡旋してもらえる権利を得ます。さらに住民の方々の要望によりいろいろなプログラムが増え、ギルドに来るたびに人々が楽しめるような仕組みを作っていくようにします。

このようにはまとんべつに関わる全ての人々が協力しあい、はまとんべつが一体感を持ってその町の魅力・固有性を再確認するのです。

1. 3. 一般的な農業体験との違い

一般的な農業体験は教育的な意味合いも含めて小中高生などの比較的若年齢を対象とすることが多いのですが、はまとん冒険プロジェクトでは年齢性別関係なく誰でも参加でき、さらには酪農に手が離せない自営業の方などでもギルドから人材を派遣することにより仕事を休んで参加することができます。

これにより、多種多様な業種に触れることが出来るチャンスを得ることが出来ます。

1. 4. 将来の展望

このプロジェクトが成功を収めると、住民の方々ははまとんべつの魅力を再確認するでしょう。そして、それをより一層広めていきたいと考える方も出てくるはずで、その時に、このプロジェクトというものを外部も参加できるようにし、より外に開いた観光まちづくりを推進していきます。この時、今までプロジェクトを実施されていた方が中心となって法人をつくり、観光会社として新規雇用の創出も試みます。このようにして住民内部で手法を確立した後に外部に開くことで、

①新規雇用の創出

②通過型観光から滞在型観光への転換

③Iターン希望者の誘致

などの利点が考えられます。とりわけ③については過疎化が進む浜頓別町において新たに人口を増やし、町を活性化させる上で大変重要であると考えます。

以上のように、はまとんべつは観光立町として、大きな発展を遂げてゆくのです。

2. 対外交流増加による活性化～酪農を例にとって～

2. 1 山村留学の再開・企画意図

対外民との交流を通じ、浜頓別の特殊性を理解してもらおう。山村留学参加者に自然との触れ合いを持ってもらい心の充実、ケアをはかってもらう。

2. 1. 1 背景

浜頓別町の高校生との触れ合いを通じ、酪農という雇用機会がすぐ近くにある、(少なくともすぐ近くにあるように外部者から見れば感じられる)にもかかわらず、地元の間人はそれに気づかずにいるという現状がありました。実際に鷺尾武瑠君という少年のように山村留学の後に地域に帰ってくる人もいます。

2. 1. 2 山村留学の現状

浜頓別町では近年まで山村留学を行っていましたが中止になりました。そもそも山村留学の町側の意図は山村留学してきた若者に町に残ってもらうことにありました。しかしながら、現実的には町に残る子供は少なく、財政的な面でも中止せざるを得ませんでした。

2. 1. 3 企画内容

継続可能な山村留学に必要なシステムの構築をします。朝日新聞記者・ぶんちゃん牧場主・大学教授などから聞き取り調査をすることで、新たな地域活性化の礎を目指します。

2. 2 酪農家の養成

前年度から引き続き、高校生と交流して町の魅力に気付いてもらうとともに、「酪農家」という選択肢を付与します。

2. 2. 1 背景

町内の浜頓別高校の卒業者の多くが町の外に出て行ってしまっている現実がある。町出身の人が町に残るためにはどうしたらいいのか？

2. 2. 2 提案内容

現状では酪農家のほとんどが家族経営であり、浜頓別高校現高3の中で酪農家志望はいませんでした。高校生に泊まり込みで酪農家体験してもらうプログラムの策定や、高校生が酪農家に就職するシステムを作ります。